

# Subjective Evaluation of Parkinson's Disease (PDQ-39) Associated with Changes in Brain Microstructure

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鯨井, 仁 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003683">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003683</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2876 号

Subjective Evaluation of Parkinson's Disease (PDQ-39) Associated with Changes in Brain Microstructure

パーキンソン病の主観的評価(PDQ-39)と脳微細構造の変化との関連

鯨井 仁 (くじらい ひとし)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、パーキンソン病(PD)患者の健康状態と生活の質(QOL)の主観的評価である PDQ-39 が、客観的な評価との関連や、脳微細構造の変化との関連について解明することを目的とする。

**【新規性、創造性】** PDQ-39 の主観的指標の信頼性と妥当性は担保されており、PD に関連する一般的な症状の統一評価である UPDRS、や運動障害の評価である Hoehn-Yahr (H&Y) 重症度と相関性が示されている。そのため治験などの臨床研究で患者のアウトカムの評価として用いられることが多いが、PDQ-39 が PD 患者の神経変性の状態と関連しているかについて、客観的に評価出来ているか画像バイオマーカーなどとの関連を検討した研究はほとんどない。

**【方法・研究倫理】** 2019 年 7 月から 2021 年 7 月までに順天堂医院パーキンソン病レジストリに登録された患者のうち、MDS パーキンソン病診断基準で clinically established PD と診断された 84 症例を対象とした。また、性別と年齢を合わせた正常コントロール 27 症例を対象とした。本研究は順天堂大学大学院倫理委員会の承認を得て行われた。実施にあたり、個人が特定されないよう配慮した。

**【学術的意義】** 本研究より、パーキンソン病患者の QOL は、運動症状、非運動症状のみならず、社会生活などの影響を受けるため、必ずしも運動障害や神経変性を反映しているわけではない可能性を示している。そのため、PDQ-39 は患者の QOL を反映する点は有用な評価スケールであるが、疾患の状態そのものを評価する場合に解釈を慎重にする必要があることを明らかにしている点で学術的な意義がある。

**【考察・今後の発展】** パーキンソン病患者における QOL 低下の要因として、神経変性のみならず、社会的要因や自己肯定感など複雑な要素があり、今後、これらの要素がどのように影響するかを明らかにすることで、より良い医療の提供に役立つことが期待できる。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。